

社団法人日本ライフル射撃協会 設立趣意書

射撃とは、元来「目標を狙いあてる」ということで、原始時代から人類の生活維持の技術として行われてきたのである。人類の最初の射撃は「投石」で始まったが、人類は、「より遠くに、より正しい」命中を求めて「投擲具」を工夫し、ついで弾力を利用した「弓矢」を発明し、さらに弾力を機械的に強力にすることのできる「弩」を考案した。火薬の発見により14世紀の初期ごろ中国において「銃」というすばらしい飛道具が発明されると、射撃技術は飛躍的に進歩し、人類の命中に対する悲願は大いに充足されるようになった。

この技術は、古来から人間形成に通じる道とされ、正確な命中を求めるには堅確な身体と沈着な精神が要件とされ、自己修養に最も適した実技とされている。中国の古典「中庸」には「子曰ク、射ハ君子ニ似タルコトアリ、コレヲ正鵠ニ失スレバ、反ッテコレヲ其ノ身ニ求ム」とあって、もし的中しないときは、その原因を他に仮託することなく、すべて己れの不覚に求めるべきであるとし、反省と克己により人格を陶冶してゆく君子の道に射道は通じると論述している。西欧においても、昔から射撃は紳士のスポーツとされ、今日世界的名射手としてその名を世界の射撃スポーツ史上に永久にとどめておくであろうソ連のボグダノフ選手（ヘルシンキ、メルボルン両オリンピック大会で優勝、第36回世界射撃選手権大会で優勝、現国際射撃連合役員）は、射撃技術強化の手記の中で「射撃は意志のスポーツである」と記し、克己心の錬成を強調している。

わが国には、天文12年（1543年）ポルトガル人により鉄砲（火なわ銃）が伝来されたが、日本人はたちまちこの飛道具「鉄砲」を自己の物とし、その製造とその射法に異常な熱意と努力を傾注した。鉄砲は上下の別なく広く行われ、またその技術も実に巧妙であったことは、史実に明らかであるところである。

明治になると、明治天皇の御勅旨により、明治15年日本帝国小銃射的協会（初めは東京共同射的会社と称した）が設立されたが、真に射撃競技が大衆的スポーツとして盛んに行われる基盤を作ったのは、大正13年11月当時明治大学射撃部員であった故日本ライフル射撃協会名誉会長師尾源蔵先生が主唱して、第1回関東大学

高等専門学校射撃大会を東京赤羽射撃場において開催されたことにはじまる。

すなわち、この大会を契機として、翌年2月学生射撃連盟が結成され（初代会長は東京帝国大学総長山川健次郎博士）、ここにスポーツとしてのライフル射撃競技の基礎が築かれたのであって、爾来わが国のライフル射撃界は、この学生射撃連盟を中核として進歩し、今日のライフル射撃協会へと発展してきたのである。

射撃競技は、オリンピック種目としては、第1回アテネ大会から実施され、つねに陸上競技に次いで、参加国数の多い重要種目となっている。世界射撃選手権大会は、1897年には、フランスのリヨン市で第1回が開催され、1970年には、その第40回大会がアメリカのフェニックス市で開催された。

今日国際射撃連合の加盟国は98ヵ国の多きに達し、科学的、文化的スポーツとして射撃競技は、老若男女を問わず、世界各国の人々に愛好されている。

学生射撃連盟を中核として発展してきたわが国のライフル射撃競技は、今や全国の都道府県にそれぞれのライフル射撃協会が設立され、その地方の射撃競技の振興に活躍しており、また全日本選手権、全日本社会人選手権、全日本学生選手権、全日本高校選手権等の各種のライフル射撃選手権大会も開催され、また国民体育大会のライフル射撃競技や全日本ピストル射撃選手権大会も開催されている。

このように射撃競技は、長い伝統と歴史に培われてきたのである。

大正14年学生射撃連盟として発足して以来、ライフル射撃界も半世紀を経過し、国民各層の間に愛好すべきスポーツとしてその根を深くおろし、会員数も年々増加し、よりいっそうスポーツ団体としての内容充実が痛感されているが、一方、最近の時勢に鑑み、鉄砲の危害予防の徹底も緊要となった。これらの目的を強力円滑に遂行するためには、現日本ライフル射撃協会を社団法人に改組し、社会教育団体として責任を明確にし、組織を整備し、銃砲の適正な取扱いの指導教育の向上を図り、公共団体としての任務と信頼を確立することが重要である。

かくしていよいよ正しいライフル射撃競技の振興に遺憾なからしめたいというのが、社団法人日本ライフル射撃協会設立の趣旨である。

昭和46年3月21日